

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	織原 良行
論文担当者	主査 新村 健
	副査 小山 英則
	副査 石戸 聡
学位論文名	Effect of Oral Qing-Dai Medication on Pulmonary Arterial Pressure Levels in Patients With Ulcerative Colitis (潰瘍性大腸炎患者における青黛内服の肺動脈圧への影響)
<p style="text-align: center;">論文審査の結果の要旨</p> <p>潰瘍性大腸炎に対する標準治療としては、5-ASA 製剤、副腎皮質ステロイド薬、免疫調節薬が用いられるが、治療抵抗例には漢方薬、青黛が投与される場合がある。最近、青黛を内服した潰瘍性大腸炎患者において肺動脈性肺高血圧症の発症が複数報告された。しかし、潰瘍性大腸炎患者における肺動脈収縮期血圧(PASP)と青黛服用との関連は不明である。そこで本研究では青黛内服による PASP への影響を明らかにする目的で、青黛内服潰瘍性大腸炎患者における 1 年間の PASP の変化を前向き観察研究で検討した。</p> <p>2017 年 6 月から 2018 年 8 月に炎症性腸疾患内科を受診した潰瘍性大腸炎患者で、青黛を内服している 40 症例を前向きに登録した。登録時に身体所見、心エコー図検査、血液検査を施行し、登録 1 年後に心エコー図検査を再検した。1 年後の心エコー図検査を施行できなかった 13 例を除外した、27 症例で青黛内服による PASP への影響を検討した。</p> <p>対象例の年齢は平均 44.0 歳、青黛内服期間は平均 36 ヶ月であった。全例では登録時と 1 年後の PASP 値には有意な差を認めなかった。観察期間中 21 例は青黛内服を継続し(青黛継続群)、6 例は青黛内服を中止した(青黛中止群)。青黛継続群では PASP 値に変化を認めなかったが(登録時 21.4 vs. 1 年後 22.6 mmHg, <math>p=0.212</math>)、青黛中止群では 1 年後に PASP 値の有意な低下を認めた(登録時 21.5 vs. 1 年後 16.8 mmHg, <math>p=0.005</math>)。1 年間の PASP 値変化量は、青黛中止群で有意に大きかった(青黛継続群 +1.1 vs. 青黛中止群 -4.7 mmHg, <math>p=0.004</math>)。多変量解析により PASP 値上昇に寄与する因子を検討したところ、登録時の青黛内服期間が独立した危険因子であることが明らかとなった。</p> <p>本研究から、潰瘍性大腸炎患者において青黛内服と PASP 値には関連があることが明らかにされた。潰瘍性大腸炎に対する漢方薬治療において留意すべき重要な知見を見出したことから、本研究は学位に値するものと評価した。</p>	